

ホームの安全確保について会社と協議！

安全は社員だけでは構築できないと認識は一致

12月25日、名古屋地本は申第6号「ホーム場の安全に関する申し入れについて」会社と協議しました。会社回答は、この間いろいろ対策をしてくれている。引き続き対策をしていく。とし組合に対してもいい考えがあれば提案されたい。と現状、問題解決に至らない重要課題であると双方で認識しました。

【申し入れ内容と回答】

1. これまで駆け込み乗車防止に向けて講じてきた対策を全て明らかにすること。

(回答) ホームの安全対策については、重要課題と認識しており引き続きソフト・ハード両面にて適切な対応を行っていく。ハード面ではホームからの転落事故を防止するため内方線付き点状ブロックの整備を進めると共にすべての駅のホームに警告誘導ブロックを設けている。また、カーブで車両との隙間が広い箇所には、回転灯や塗装で注意喚起すると共にお客様の多い駅では列車接近を自動放送や電光表示でお客様にお知らせするようにしている。さらに、万一転落した際にそれ以上の危険を回避するため非常停止ボタン及び非常通報装置をお客様の多い駅に設けているほか、転落検知マットやホームへ昇るステップや列車監視用カメラを必要により設けている。ソフト面では、車内放送やポスターによるお客様への注意喚起をすると共に発車表示テロップ等を活用して駆け込み乗車に対する対策を講じてきた。また、非常停止ボタンの位置もわかりやすく等、事故防止に努めている。今後も引き続きお客様の安全確保のため状況に応じて必要な対策を引き続き実施していく。

2. 駆け込み乗車に対する迷惑行為をテレビスポット、及びJR東海HPで行うこと。

(回答) 現時点でそのような計画はない。

3. 駆け込み乗車防止の放送文例を車掌と一緒に考えること。

(回答) 駆け込み乗車防止の放送文例についてはわかりやすく簡潔で聞き取りやすい案内放送を行っていく。

4. ホームに駅員を配置すること。

(回答) 今後も引き続きお客様の安全確保のため状況に応じて必要な対策を実施していく。

5. 駆け込み乗車が出来ないようにホームドアを設置すること。

(回答) 現時点で設置する計画はない。

6. 事象が発生した場合、乗務員に責任を転嫁しないこと。

(回答) 状況に応じて適切に判断する。

【主なやりとり】

組合：駆け込み乗車は増加しているのか。減少しているのか。

会社：会社としてはつかんでいない。

組合：駆け込み乗車により列車遅延は発生しているのか。

会社：そのような統計がない。

組合：報告書は上がってきているのではないのか。何故、数値をつかんでいないのか。

会社：事象をつかむために報告書を提出してもらっている。

組合：旅客に対して危険であるという認識をいかに広めていくかである。

会社：回答したように対策を取っている。

組合：現実、ドアが閉まる直前で物を挟んだり手を挟む行為をしている。ホームでマナーアップキャンペーンはやれないのか。

会社：手法はあるとは思う。

＜車両改善も併せて要求＞

組合：キハ75形は半自動の時、駆け込み乗車が多い。ドア開の表示灯点灯が見えにくくキハ25形のように見やすい表示灯に改良してはどうか。現実に事象が多い。

会社：意見は何っておく。

組合：他会社も同種の問題を抱えていると思うが、話合う場はあるのか。

会社：ある。旅客からの暴力行為には他会社とも協調している。

組合：駆け込み乗車についてはどうなのか。

会社：他会社も案内放送されている。問題認識は共通している。

＜車掌だけの対策にせず、現場社員の声に耳を傾け、 旅客へモラル向上の働きかけを＞

組合：駆け込み乗車防止は、旅客のモラル向上しか現時点では不可能である。旅客へ危険であること、列車遅延に繋がり他の旅客に迷惑を掛けているという認識を持ってもらわなければならない。

会社：問題認識は共通している。いい提案があれば是非申し入れてほしい。

組合：現場社員の声を聞くこと。旅客にはモラル向上のために働きかけること。旅客からの駆け込み乗車に対する苦情については毅然とした対応をとること。

以 上